



「中央図書館」の取組みを紹介します

12月2日火曜日、業務改善運動の実践に向けて、熱心に取組まれている中央図書館へ取材に行ってきました。



取材協力：リーダーの井上さん

(写真右から) 司書の酒井さん、小土井さん、細見さん、西澤さん(珍しい男性司書)

◆図書館を地域交流の場に！

業務改善職場学習会では、それぞれの司書からたくさんのアイデアが出され、どれも素晴らしい案でしたが、話し合いにより一つに絞られました。

そのテーマは、『毎月10日は篠山だけ図書館の日』～わくわくドキドキがまっている～です。また、コンセプトは、「図書館でにぎやかにしてもいい日をつくろう！」。

具体的には、「地域 コミュニティ 図書館」を目指しています。内容としては、館内をフリートークスペース*1・サイレントスペース*2・オープンスペース*3に分けて開放することと、司書の方々が利用者の状況に応じてサービスを提供することの Two Ring Systems です。

*1 フリートークスペースとは

利用者が気兼ねなくおしゃべりしたり、子供たちが声を出して絵本を読んだりコミュニケーションが取れる場

*2 サイレントスペースとは

「図書館に自習室を！」というニーズから、静かに過ごせる自習室

*3 オープンスペースとは

司書が予告なしの読み聞かせなどを行う場

以上により、図書館を地域の皆様が交流する場として開放するのが目標だそうです！

業務カイゼン！くろまめ運動

毎月10日は篠山図書館の日
～わくわくドキドキがまっている～



空間
再構築

開かれた地域コミュニティ図書館を作るために

交流
ミニイベント

H26.12.02
ミーティング資料
篠山市立中央図書館
業務改善実行委員会
作成協力 近藤邦幸

全職員のミーティングでは、上記のような資料を用意し、「毎月10日は篠山だけ図書館の日」の実施に向けて、さらに意思疎通を図られました。着実な準備と市民への周知期間を経て、数か月後の実施をめざしています。

◆司書さんたちのアイデアや思い

『“施設提供”をしたいんです！』

大きな図書館がひとつしかない篠山だからこそ、コミュニティの場として施設を提供したいと考えておられます。

例えば、月に1日“くらい”空間を用途変更して、

- ・市内各地から来られる方々の交流の場
- ・耳のとおい方が周りを気にせず話ができる場
- ・子どもたちがお気に入りの本を声に出して読める場に！

だけ

「毎月10日は、篠山 図書館の日」を進めるにあたって、みんなを巻き込んで楽しくすることはもちろん、内容を細かく決めず“真っ白”であることも重要とのことでした。真っ白だからこそ、フレキシブルに活動できるのだそうです。

そのためには、職員のスキルUPも重要です。本の読み聞かせや手遊び、新しい本の紹介など、通常業務で手いっぱいという司書たちが、どんな風にスキルUPしていくのか楽しみでもあります。

図書館の日が実施されるのは早くて来年4月、実施された暁には館内放送でのイベントの紹介や、過去使用実績のない中庭での紙芝居等次々とアイデアが挙がっています。



<中央図書館の皆さん（最初の職場学習会開催時）>

文責：実行委員広報担当
課税課主事 羽路 由佳子
経営企画課主事 酒井 克美
イラスト協力：小林 由佳さん

すばらしい取組みを取材して

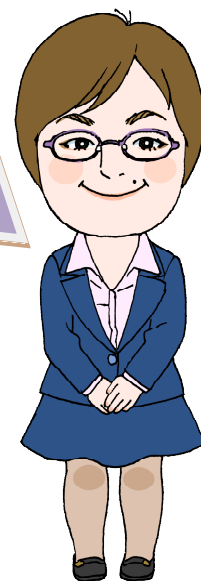


酒井 克美

中央図書館を取材させていただいて、パワーポイントを使ったプレゼンが始まったので驚きました。「まだ実施には至っていないので…」というお話だったので、今後こういった方向で考えておられるのか取材させていただく気持ちでお邪魔したのですが、きっちりとパワーポイントにまとめた内容と、その後取材させていただいた5人の委員のみなさまの熱意に圧倒されました。

普段の業務の中で、「こうなったらもっといいのに」という思いが大切だと感じました。

図書館にもっと気軽に来てほしい、コミュニケーションの場としてほしいという、司書の皆さんのアツい思いが伝わってきました！”主役は利用者”という思いと、業務改善には司書さん自身のレベルアップが必要と、高いモチベーションで取り組んでいただいて、とてもうれしかったです！



羽路 由佳子



業務カイゼン！くろまめ運動
く・・・工夫しながら
ろ・・・ロマンを描き
ま・・・前向きな一歩で
め・・・めざせ！カイゼン